

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人  
小羊学園

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707  
E-mail kohitsuji@imix.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人  
印刷所：聖隷サービス(有)  
定 価：一部 30円

2010年1月20日  
第 321 号

### 本当の豊かさとは何か

理事長 稲松 義人

いかに幸いなことか

主を畏れ、主の道に歩む人よ。

あなたの手が労して得たものはすべて

あなたの食べ物となる。

あなたはいかに幸いなことか

いかに恵まれていいることか。

妻は家の奥にいて、豊かな房をつける

ぶどうの木。

食卓を囲む子らは、オリーブの若木。

見よ、主が祝福される人はこのように

祝福される。

(新共同訳聖書 詩編一二八より)

これは、若樹学園(現在の支援センターわかぎ)の名称の典故となった聖書の一節です。正確には文語訳聖書からの引用で、それによると「若木」は「若樹」と記されています。

小羊学園から分かれて若樹学園が開園することになったとき、三〇年前には珍しい小舎制を採用し、家庭的な雰囲気をめざしたことからこの名称がつけられました。

学校制度からも除外され、生まれ育った地域社会での暮らしに限界を感じた重知的障がいのある子どもたちを受け入れることが小羊学園のスタートで

した。しかし、小羊学園で成長した子どもたちを地域社会に返すことは、当時は困難でした。だからこそ、施設の生活の中で、少しでも家庭的な雰囲気を感じられるようにしたいというのが、若樹学園のコンセプトだったのではないかと思われます。

この詩編に詠われている内容をみてみると、「自分で働いて得たもので家庭の経済が成り立ち、家には奥さんがいて、子どもたちが温かい家庭ですくすく育っている。これが神様に祝福された幸せな生活である」ということではないかと思えます。

しかし、最近の私たちの生活を見てみると、「自分で働いて得たものだけでは家庭の経済をまかなえず、やむを得ず奥さんも外に出て働く。子どもたちは寂しさを我慢しながら、塾とゲームに自分らしい成長の機会を奪われている。これでは到底、神様から祝福されているとは感じられない。」というのは偏った見方でしょうか。

私は最近仕事を通して出会うご家庭を思い浮かべながら、この詩編にあるように、平凡だけれど喜びが感じられる家庭生活ができるような社会をつくりたいかなければならないと感じます。女性が働くことを否定しているわけではありませぬ。ともに暮らす地域社会、みんなで支えあう市民社会を、女性も男性も一緒になって築いていくことは、いつの時代も当然なことです。

年頭にあたって、社会福祉法人小羊学園の将来に向けてのヴィジョンをあげてみます。まず、老朽化した支援センターわかぎの建物を改築です。どのように改築するかは相談をはじめたところですが、改築したあとの「わかぎ」もそこで生活する人たちが、神様に祝福されていると感じられる場所であってほしいと思います。またそのためには建物だけではなく、私たちが、神様に祝福されていると感じてもらえるような支援をすることが大切です。

施設での生活だけでなく、地域においても、同じような生活できるサービスを提供したいと思えます。そのためには働く場所(日中活動支援施設)と、住む場所(ケアホーム)において、どのような支援がよいのかということもこれからの大きなテーマです。

さらに、成長の過程で「神様から祝福されていること」を感じる心が育つように、子どもたちとその家庭への支援を考えていきたいと思えます。

これらの目標は、実際には小羊学園だけで達成できるのではなく、関係機関が連携し合うことと、市民として多くの人たちが参画してくださることが必要です。施設が地域と切り離されたかたちで機能するのではなく、地域に生きる一人ひとりの主体性によって、地域コミュニティを築くことが大切です。それこそが私たちの求めるべき本当の豊かさではないかと思えます。

# 小羊学園のクリスマス

「イエスキリストのご降誕を祝して」

キリスト教を基盤にして創立された小羊学園では、クリスマス을大切にしています。今年も、各施設で礼拝を執り行い、その後みんなでお祝いをしました。今回は、編集者が取材に出かけた各施設のクリスマスを紹介します。

## ■三方原スクエア

12月26日(土)にスクエア食堂で行いました。スクエアの利用者・保護者・アルバイト学生・旧職員等のお客様などが参加し、総勢120名ほどでクリスマス会を行いました。毎年クリスマス会にご参加くださる国際ソロプチミスト浜松の会員3名の方も、お越しく下さいました。

礼拝では、遠州栄光教会の森田恭一郎牧師が、クリスマスにあたって、説教(メッセージ)をしてくださいり、クリスマスの意味を確認することが出来ました。讃美歌も2曲歌いました。みんなも知っている「きよしこの夜」などは、大きな声で歌ってくれました。クリスマス礼拝の中では毎年、献金をしています。今年の献金は、日本

キリスト教社会事業同盟を通してアジアでの社会福祉の働きのためにお送りすることにしました。



礼拝が終わり、その後は祝会を行いました。今年のイベントは、「そよかぜ」によるブラックシアターを披露していただきました。

祝会の終了後は、保護者の方やお客様と各グループに分かれて食事をとり、クリスマスの楽しいひと時を過ごしました。

## ■ドルチェ

12月19日(土)マルカートのホールを利用して行われました。毎年、ドルチェのクリスマス会は、兄弟も含めたお子さんの御家族が参加され、にぎやかなクリスマス会になります。今年は21組の御家族が参加されました。

はじめに、稲松施設長がキャンドル礼拝を行い、イエスさまのご降誕をみんなで祝いしました。弦楽四重奏の音色をバックに、イエスさまのお誕生紙芝居も行いました。続いて、弦楽によるクリスマスソングメドレーです。シンノスケ君のお父さんの知り合いで、音楽大学を卒業された4人の演奏は、美しく柔らかな音色で、聴いているみんなもうっとりしながら、なじみの曲では一緒に歌いました。

続いては、スライドショーです。この1年のドルチェの歩みを観ました。自分の写真が写ると「あっ!いた」と嬉しそうに笑みを浮かべていました。スライドショーの後は学生ボランティアサークル「こねくとほーと」による、



ボラレンジャーショーです。赤・緑・黄レンジャーの華麗な動きと、コント張りのポケとつっ込みで、みんな大笑いでした。

次はみんなが楽しみにしていたケーキコレクションがやってきました。今年は、一人1枚のパイ生地を生クリームやフルーツでデコレーションをしました。自分の好きなようにデコレートし、気分もおいしさもご機嫌です。最後に、高校生のボランティアが演じるサンタから、プレゼントをもらって、みんなご満悦でした。

## ■オリーブの樹

12月22日(火)にオリーブの樹活動室で、クリスマス会を行いました。

はじめに利用者・職員が参加し、北教会佐伯恒道牧師の司式のもと礼拝が執り行われました。礼拝後は、ティータム&サンタ登場です。大きな袋を

担いだサンタの姿が見えると、みんなの気持ちは高ぶります。サンタからプレゼントをもらうと、大喜びでした。昼食からは、「わかな」の子どもたちも一緒に参加して、クリスマスランチをいただきました。メインは何と言ってもチキン。手に持ちおおいしそうに頬張っていましたよ。



午後からは保護者のみなさんも出席されての、クリスマスコンサート。今回は、「はまきた童謡会」によるライブです。「ジングルベル」などのクリスマスソングと「しあわせならてをたこう」などの童謡を15曲ほど演奏してくださいました。後半は、聞いているみんなも盛り上がり、特にカズキさんやトミコさんは、前に出て踊ったりしていました。その後、アキヒトさんとツタエさんのベースディソングを生演奏で歌い、楽しいクリスマス会を終えました。

### ■ 小羊デイケアホーム

12月24日(木)にデイケアホーム集会所で行われました。デイケアホームでは、毎年3mほどの大きなツリーにドイツ風の飾りつけがされており、参加した人たちの目に留まります。

礼拝では、遠州栄光教会の森田恭一郎牧師が執り行ってくださり、厳肅な雰囲気の中にも、心温まるメッセージをいただきました。献金はインド聖隷希望の家に献げました。祝会では、「そよかせ」によるブラッ



クシアター、ビデオシアター、「吉田バンド」と出水施設長のフォークセッションが行われました。ビデオシアターでは、10月に出掛けた箱根旅行をみんなで見賞しました。続いて行われたフォークセッションは、恒例です。今年は何年の名曲2曲とクリスマスメドレーの全3曲を披露され、出水施設長のやさしい歌声にみんな聞き入っていました。

シユウゾウさんは、フォークのリズムがとても楽しかったようで、手を前後にゆすりながら指揮者役を演じてくれました。最後は、お楽しみみのサンタさんの登場で、あちらこちらから笑顔と喜びの声が挙がっていました。

祝会中は、デイケアホーム特製手作りケーキも振舞われ、心もお腹も満たされた、楽しいクリスマス会となりました。

### ■ ぱびるす

12月25日(金)にぱびるすとしては

じめてのクリスマス会が行われました。当日は、小学校に入学前のお子さん2人と小学生以上の児童15人が参加をしました。両宮施設長が、礼拝を行い、イエスさまのご誕生の紙芝居を使って説明しました。最初に「クリスマスって何の日?」と子どもたちに聞くと「サンタさん」と答えていた子どもも、最後にもう一度同じ質問をすると「イエスさまの誕生日」と答えてくれました(でも：大半の子どもは、やっぱりサンタさんでした)。

続いて、「そよかせ」によるブラックシアターが行われました。今日の演目は傘地蔵です。暗い部屋の中、蛍光に浮かぶお地蔵さんを、不思議そうに眺めていました。ブラックシアターの後は、クリスマスソングを歌いました。みんな大きな声で歌い、小さな部屋に、元気な声が響き渡っていました。その後は、クリスマス特製ランチをみんなでいただき、子どもたちにとっても、ぱびるすにとっても、記念すべき日となりました。



「そよかぜ」

今年のクリスマス会では三方原スクエア、小羊デイケアホーム、ぱびるすの3施設で、ブラックシアターを披露して下さいました。

新居町在住の美人主婦3人で構成。普段は、町民図書館で活動をされており、浜名特別支援学校や老人施設でも活動をしています。ブラックシアターの他、人形劇や巨大紙芝居などもお得意のようです。

○ブラックシアターってなに？

暗室で鑑賞できるよう、蛍光クレヨンなどで製作された、パネルシアター。黒のボード上でショーが展開されます。



中西晴美さん・後藤佳代子さん・石牧孝恵さんの3名

火災報知設備の助成いただく

ケアホーム ひまわり ひだまり

21年度自立支援基盤整備事業を申請・受理され、ケアホームひまわり・ひだまりの2施設に、火災報知設備の設置が完了致しました。助成額は2施設で総額2,384,250円です。火災報知設備設置の義務化(24年3月)が迫る中で、国の補助を受けての実施となりました。火災発生時には、直接消防署に連絡が入るようになり、これまでより安全性を確保することが出来るようになりました。

ひまわり 火災報知器



— 小羊写真集 ⑥ —

月に1回の散髪。気賀の手塚さんが、小羊学園にお越しくださり、子どもたちの髪の毛をカットしてくれました。

散髪が苦手な子どもも多く、カットするのに四苦八苦する場面もありますが、散髪後には、すっきりと晴れやかな表情に変わりました。



小羊学園を支える会

2009年度寄付金報告

12月受付分 3,418,290円(210件)  
累 計 7,806,094円(479件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」  
郵便振替口座 00890-4-45415  
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005  
静岡銀行細江支店 (普通) 043483

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)  
三方原スクエア内 ☎053-414-1833

編集後記

12月15日、支援センターわかぎ利用者のNさん(50才)がくも膜下出血で急逝されました。彼は、会話はできませんが、とても寡黙な方で普段はお喋りをほとんどしない方でした。そんな彼が、急な病に倒れられ、朝方に息を引きとり天に召されたことには、言葉にないメッセージがあったと思うのです。

「自分より、もっと表現できない人たちを支援する職員さん、言葉のない彼らの表情や動きに、目と耳を傾けて」と。彼らの言葉にならないメッセージを感じつつ、日々の仕事に励まなければと改めて思うのです。

寒さ厳しい折です。どうぞみなさま、お身体ご自愛下さい。(F)